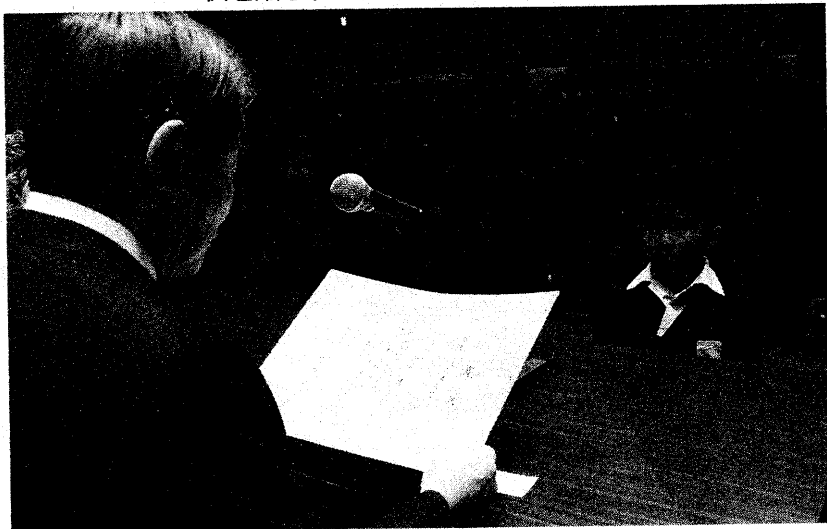


愛媛県議会の竹田祥一議長から表彰
状を贈られる加地君—愛媛県砥部町



愛媛

家族の絆取り戻そう

砥部で「えひめ親守詩大会」

学校での取り組み発表も

子供から親へ感謝の気持ちなどをこらえた短詩を発表し、親子の絆や家庭のあり方などについて考える「第2回えひめ親守詩大会」が22日、愛媛県砥部町の砥部町文化会館で行われた。会場には家族連れなど約450人が参加。四国中央市立川之江小1年の加地隼士朗君(7)と砥部町立広田小2年の肥田凌太君(8)が県議会議長賞に輝いた。親守詩は子供だけで作る俳句形式と子供が5・7・5の上の句、親が7・7の下の句を作って完成させる連歌形式の2種類。今大会は児童・生徒を中心に約3700作品が集まり、約1

00作品を表彰した。加地君は俳句形式で「おふとんを あったためておいたよ ぼくとねて」、肥田君は母親との連歌形式で「米のとぎ 教えてくれたお母さん 狭いシンクがうれしかったよ」とこらえた。

この日は、県内の小学校教諭らが家族の絆を題材とした学校の取り組みを発表。宇和島市立和霊小学校の信藤明秀教諭(46)は、4年生の児童約90人を対象に、誕生からの出来事を親に聞き、感謝の手紙を発表する授業を行ったところ、大きな反響があったと報告した。

また、米メリーランド大学講師のエドワーズ博美さん(59)が、「見直そう、日本の子育て」と題し講演。「神仏や先祖に手を合わせる日本の家族制度は子育てに反映する」としたうえで、「昔の日本の家庭を取り

戻すことで、子供の道徳心や幸福感が育まれ、家庭の絆が強まる」と指摘し、「家庭の絆が国力に影響する」と力説した。

サシケイ 新聞